

H28年度 第1回高知市地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：9月6日（火）14:00～16:30

場所：工業技術センター2階研修室

1 議事等

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

- ・H28年度のスケジュールについて説明

（2）地域アクションプランについて

- 1) 第2期高知市地域アクションプランの取り組みの総括について
 - ・第2期の取り組みの成果等について説明
- 2) 第3期高知市地域アクションプランの進捗状況等について
 - ・主な取り組みの上半期の進捗状況等について説明
- 3) 修正の案件について
 - ・「県産竹材を用いた新規分野への製品展開」について説明
 - ・案について承認された

（3）産業成長戦略について

- 1) 志国高知 幕末維新博について
 - ・実施計画について説明
- 2) 移住促進の取り組みについて
 - ・移住促進策の進捗状況等について説明

2 意見交換

<産業振興計画関連 年間スケジュールについて>

- ・特になし

<地域アクションプランについて>

- ・(No.12 「食」の提供による地域農産物の消費拡大) 高知市JA女性部による惣菜加工事業は順調に推移している。
この惣菜加工施設については、地域の方々の新たな6次産業化や子供達の食育の取り組みに活用していただくことも併せて計画しており、現在、利用形態等について検討を行っている。
- ・弘化台の卸売市場の改修時には、オープンキッチンを作ってはどうか。伝統料理の再現や伝承につながるのではないか。
- ・JA高知市においては現在大規模な直販所を持っておらず、小規模な直販所が各地域に点在している。今後は、島根県のJAしまね雲南地区のような取り組みを参考に、様々な直販所をルートで結び品揃えを充実させて、大規模な直販所に対抗していくことや、農家の方々が目の前の直販所だけではなく、大きな視点を持って生産することができるよう取り組みを検討していく。
- ・地域の産品やサービスを県外の方に知っていただくため、ふるさと納税の返礼品として、農産品や海産物以外にも、よさこい祭りの指定席や宿泊施設の招待券などを加えてはどうか。

- ・春野地域では、農業研修生等の方々から、受け入れられた地域で居住したいという要望があるのだが、JAには空き家情報もなく、住居の問題にどのように対応すればいいのかわからない。また、受け入れ農家、研修生からも「空き家・ハウスの情報を一元化して提供してもらえると、いい判断材料になる」との声がある。行政と地域の自治会と連携した、情報提供も検討してもらえないか。
 - 中山間地域には空き家情報データベースがあるが、春野地域でもデータの集積図り、提供していく必要がある。

- ・材木が売れることが高知県の経済を活性化させ、にぎわいを取り戻す鍵である。
 - CLTをはじめとする集成材の普及が重要なので、用途に合わせた普及方法について、今後とも考えていきたい。
- ・林業は、今は皆伐に力を入れる時代。苗木を買う必要があり、購入資金、維持管理費等を考えると、1ヘクタール分を売ってもお金が残らない厳しい状況であることを知ってもらいたい。

- ・御豊瀬地区では底曳き漁をしているが、海水が温いため沖で捕った魚がすぐに弱ってしまい、高値では売れない状態。そのため、冷海水殺菌装置の導入に支援をお願いしたい。
- ・御豊瀬地区は過去2,000人の住民が300人に、漁業者が300人から25人に減っている。住民を増やし、漁業者を育てて、漁業を維持していきたい。
 - みませプロジェクトの方々など関係者との協議を行いながら、地域活性化につながる何らかの取り組みを進めていきたい。

- ・(No.25 本家よさこいのブランド確立とよさこい文化の継承・発展) よさこいアンバサダーがコンシェルジュとして発足したので、全国大会を行うまでに大きくなったよさこい祭りと、どう結び付けていくかが今後の課題である。2020年に東京オリンピック、パラリンピックを控える現状において、よさこいを一つのベクトルに合わせて進めていく必要がある。
- ・2020年のオリンピックでよさこいが脚光を浴びるまでに、聖地高知での世界大会の開催を決定してほしい。将来まで愛される祭りであることをイメージして取り組みを進めてほしい。
- ・よさこい情報交流館では、インバウンドにより外国人観光客の入場者が増加し、8月19日に20万人の入館者の記念セレモニーを開催した。インバウンド対策として、高知工科大学の学生の協力を得て、外国人の方々への音声アプリ(よさこい情報交流館の音声案内アプリ「YOSANAVI(よさなび)」、観光案内アプリ「CHURISM(ちゅうりずむ)」)を開発した。今後は、アンドロイドだけでなくiphone端末への対応も行っていく。
- ・8月10日を「よさこいの日」として制定してはどうか。職場を休みにくいという理由で踊り子を断念している場合も多いため、「よさこいの日」の宣言が、踊り子の増加に繋がるのではないか。

- ・ 製造業関係の取り組みが少なく残念。農商工連携などの切り口からの事業展開等も期待できるので、今後とも積極的に支援を行ってほしい。
 - 高知市地域の産業については、他の市町村に波及していくような取り組みが多く、特に工業系に関しては産業成長戦略の面での支援が多くなっている。そのため、地域アクションプランにならない事も多いが、これの有無にこだわらず、様々な支援を行っていくこととしたい。

<産業成長戦略について>

- ・ 今後増加が見込まれる外国客船の寄港に合わせて、バスやタクシーの体制を強化し、インバウンドのお客様も平成 29 年 3 月からの幕末維新博に取り込める仕組みづくりが必要。
- ・ 幕末維新博において県外・海外への広告を打つのであれば、デザイナーを募り、土佐の木材を使ったデザインコンペを開いて、これまでのイメージよりさらに魅力的な土佐の木材の使い方をPRしてはどうか。

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域産業担当）

電 話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp